

町内会連合会役員との『協働のまちづくり懇談会』 会議録

(H23.6.14 18:00 ～ 砂川総合福祉センター)

出席者

町内会連合会役員 24名（男性22名、女性2名）

市 善岡市長、角丸副市長、井上教育長、湯浅総務部長、高橋市民部長、
栗井経済部長、金田建設部長、山梨建設部審議監、森下教育次長

事務局 近藤まちづくり協働課長、板垣係長

1. 開 会

近藤課長

2. 挨拶

市 長 ～ 皆さん、おぼんでございます。本日は大変お忙しい中、お集まりをいただきありがとうございます。

私は平成11年、菊谷市長の時に行革の担当をしており、その時に敬老会行事補助金、これを削らなければならないということで困り、町内会連合会の当時の役員の方々といろいろお話しをしたところ、町内会連合会の方が各町内会にアンケート調査をしてくれました。

その結果は、ほぼ8割の多くの町内会が廃止しても良いというアンケート結果でした。ところが、その時にすごく反対した町内会がありました。その内容を分析すると、一生懸命活動されている町内会が一番困ったのです。私は当時まだ40代でしたけれども、私の思いとしては、行革ですからお金は欲しい、でもひょっとしたら地域コミュニティの芽を摘んでしまったのではないかという思いに駆られておりました。その時になるべく町内会連合会と協議をしながら、物事を進めていく必要があると感じました。このことが平成11年の行革の私の反省でした。

その後は、何かにつけて町内会連合会と行政との話し合いの場を持ちながら、例えば、生活道路も行政が一方的に決めるのではなく、町内会連合会の要望を聞きながら実施していこう、また、町内会館の問題も町内会と協議しながら進めていくよう大きく変えてきました。

今回、私は、4月の統一地方選挙で新たに市政を担うことになりましたので、大きくそのような方向に舵を切っていきたいという思いで今日はやって

まいりました。後ほどその内容については、詳しくお話をしたいと思いますけれども、本日はお時間をいただきましたことに心からお礼を申し上げて挨拶とさせていただきます。

○職員紹介

角丸副市長より順次自己紹介

○説 明

資料 「市民との協働によるまちづくりをめざして」 に基づき
近藤課長より説明

3. 懇談会

「市民との協働によるまちづくりをめざして」をテーマに意見拝聴

- ①町内会活動の現状と課題
- ②協働のまちづくりを進めていくために

新日の出町内会

(町内会連合会会長) ～今日は、行政の皆さん方には、市長をはじめ大変お忙しい中、住みよいまちづくりについてご提案をいただき、そして町内会連合会と協働でなんとか一歩でも前に進めていきたいという考え方のもとに、こうした大変貴重な時間を設けていただいたことに感謝とお礼を申し上げます。

また、日頃、前市長からもそうであったように町内会に対して、非常に関心を持っていただき、いろいろな意味でご指導をいただいたことにも改めて感謝とお礼を申し上げます。

私たち町内会は、従来から地域の見守り活動を行政からご支援をいただきながら取り組んできたところです。平成2年からひとりの不幸も見逃さない住みよいまちづくり全道運動ということで、道町内会連合会、道社会福祉協議会、共同募金会の三者の提案による運動を現在も続けており、私たち町内会もそれらを基本に毎年活動を展開しています。

活動の重点項目といたしましては、組織体制の確立と部会制に積極的に取り組む、単位町内会の連携と交流の推進、青少年の健全育成、ごみの減量化と資源リサイクル活動の推進、町内会の福祉ネットワーク活動の充実と促進、他団体との連携強調ということで住みよいまちづくりを目標にあらゆる団体との交流を進めています。さらに今年度、砂川において交通事故で1人の尊

い人命を失っていることから、今年も交通安全運動については、7月20日に旗の波運動を行うということで組織部が担当し、活動を展開しています。

それから、阪神・淡路大震災以降、自主防災活動ということで、道町連の指導に従って、それぞれ地域の中で活動を展開しています。

住みよいまちづくり運動、さらには防災組織の取り組みにつきましては、道町連として、まちづくりについては3万円、自主防災組織づくりについては2万円を助成し、各单位町内会の組織づくりを推進しています。当町内会連合会におきましてもそれぞれの町内会が、これらの事業にいち早く取り組み活動を展開しています。

今、市民が少しずつ減ってきており、町内会費を見ても減ってきているという寂しい状況にあります。23年度の予算につきましては、会費含めて227万、昨年は233万1千円で、昨年の予算より6万1千円削減した予算となっています。何といたっても市から年間52万8千円という助成をいただいで活動を展開していることに改めて厚くお礼を申し上げたいと思います。

地域づくりについては、私ども町内会連合会は総務部、組織部、広報部、研修部の4つの部を構成して、それぞれ事業計画に基づき活動を展開しています。

阪神・淡路大震災以降、今回の東日本大震災におきましても過日行われた道町連の研修大会において、発表された成果を役員会で申し上げて協力を呼びかけたところですが、非常に地域が希薄化している今、今回の震災の結果を見ますと、隣に住んでいる方の名前を忘れていたというのが大きな課題となっています。アンケートの結果をみると、頼りにするのは、やはり親族が1番で、町内会や隣近所は支持されなかったという非常に寂しい報告も受けてきました。この状況を解決するには、常日頃の地域の交流が非常に大事になってくる。北海道では今、町内会への加入率が70%です。大学教授の説明では東京では一部20%の加入しかない。ここ数年で町内会組織がなくなるという心配があるという報告もされてきました。

そういう意味では、当町内会連合会では、各戸の積極的な活動、そして単位町内会との連携を密にしながら地域づくりに取り組んでいますし、さらに私たちも勉強をしながら、組織づくりに継続して取り組んでまいりたいと考えています。

行政の皆さんにも町内会の在り方について、いろいろご助言等をいただきながら今後取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げます。以上、現在私たちが取り組んでいる主な内容をご説明させていただきました。

市長 ～ 私の考えていることをここではお話しします。

私が皆さんに申し上げたいことは、何とか地域コミュニティをもう少し強

化できないだろうか。地域コミュニティの最小単位は町内会です。これから迎えるであろう超高齢化社会、後 10 年たつと高齢化率は 40%になる。高齢者が高齢者を支える時代に入ってしまう。なんとかその前に町内会をもう少し強化して、そして町内会と例えば福祉サービス事業者、包括支援センター、またはNPO法人、これらの事業者と行政の三者で何とか地域を支える、高齢者を支えていくシステムを創っていけないだろうかというのが、私の思いでございます。

どうしてこのようなお話しをするかと言いますと、国の財政状況はもう破綻状況でございます。社会福祉にお金が回ってくるという状況とはとても思えません。今、国では 2015 年までに消費税を 5%引き上げ、その財源を福祉に充てると言っていますが、福祉事業を実施しているのは国だけではなく地方も実施しています。でもその 5%は国の分にしか充てないと言っている。地方の部分は地方でやれという状況になってくる。高齢化は着実に進んでいく。当然財政面はそんなに豊かになってこない。なんとか市の財政だけではまかないきれない分野については、地域と事業者と行政で支え合う仕組みを創れないだろうかというのが、私の思いでございます。

先ほど挨拶でも触れましたが、平成 11 年当時、町内会がしっかりしているところについては、敬老会行事をしっかりと行っていた。しかし、なかなか人材がない所などは、市からの補助金をそのまま物に変えて配っていた。物を配っている町内会は、それは無駄だからやめても良いというアンケート結果でしたけれども、実際に活動している町内会は非常に反対をした。これは、当時の町内会連合会役員の皆さんと私が一緒に悩んだ部分です。本当に廃止をして良いのだろうか。結果として廃止にしましたけれども。それは反省として残っています。

地域コミュニティをもう少し強化したい。そのためには多少お金を出しても良いだろう。例えば、竹下登内閣の時にふるさと創生資金事業で 1 億円が市町村にきました。これまでそれは、イベント事業に充てていましたけれども、今度は地域が、町内会が地域コミュニティを高める事業を行うのであれば、そちらの方に振り替えても良いのではないかと。

それから、災害弱者名簿の作成。各町内会で取り組んでいるところもありますが、なかなか個人情報保護法の関係でうまくいかなかった町内会があるとも聞いています。これについては、もう少し市が関わっても良いのではないかと。町内会によってはふれあい名簿と呼んでいるところもあるようですが、市でなんとかその手続きをやりやすくするような条例を作れないだろうかと考えております。個人情報保護法との絡みもありますので精査が必要ですが、例えばそれを作って、議会にも当然かかりますけれども、それを宣伝することによって、各町内会長さんを動きやすくする事も行政の役割ではないかと考えております。

話が戻りますけれども、町内会ごとに力量差があること、これが私が常に気にしているところです。やれる町内会は良いのですが、なかなか手が回らない町内会もありますので、各町内会と事業者と行政と三者で高齢者を支え合う仕組みを創りましょうと言って、果たして軌道に乗るのだろうか。やれる町内会はどんどんやっていく。そうでないところはどうしようかというのも行政としては困るところで、私も非常に悩んだところです。ですから選挙中は、町内会と事業者、事業者というのは社協や包括支援センターやNPO法人も想定していますが、行政と三者でなんとか支え合う仕組み、行政はもう少し関わっても良いのではないかということしか、実は言っておりませんでした。

私の悩みは、町内会の力量差をどう埋めていったら良いのか。それにはやはり時間がかかると思いますが、一つの考え方としては、ワンクッションを置いてNPO法人を育成して、その中に例えば社協に詳しい人、包括支援センターの介護に詳しい人、行政に詳しい人などいろいろな方に関わってもらって設立をして、町内会で見守りをしたり、この人大変だなという方の相談に対してNPO法人の人が行って問題の解決を図る。ただ、NPO法人だけでは対応できないこともあるので市との協働で、例えば市の方では消防、介護福祉課、住宅課などいろいろな分野の人とNPO法人と協働で意思の疎通を図りながら、地域で困っている方、相談に来られる方の対応をする。

なかなかお年寄りになると相談に来られない方やいろいろ小さなことで悩んでいる方もいる。それらを解決するための一つの手法として、NPO法人を立ち上げて良いのではないかと私は考えています。

それが良いのかどうか難しい面はございます。本来のあり方は、NPO法人ではなく町内会を育成しながら、特徴的な事業をしているところには補助をするなど、そうやって地域町内会を強化して、町内会またはそれを束ねる町内会連合会と事業者と行政というのが本来の理想ですけれども、それがうまくいかないのであれば、NPO法人を設立して、町内会の役割としては見守りや地域で困っている人の発掘、その人に対して直接、NPO法人の相談員のような人が訪問して、その悩みの解決を図るという手法も可能だと考えております。どちらが良いのかは悩みどころですが、これについては、時間をかけながら町内会連合会の皆さんと協議をしながら、そういう仕組みを多少年数がかかっても創っていければというのが私の思いでございます。

こういう考え方に対して皆さんからいろいろなご意見をいただき、さらには皆さんにもご一考をいただく。行政と皆さんが一緒になって考えながらそういう仕組みを創っていければというのが市長としての私の考えであります。

新日の出町内会 ～ 今、市長から包括支援センターの利用について触れられたと思いますが、私も包括支援センターができた時の運営委員で、1、2度年間の報告書をい

ただいたことはあります。

なかなか市民の皆さんに周知が図られておらず、包括支援センターはどうなっているのだという質問もあったことから、2年前に研修会を開催して包括支援センターとはなんぞやということを、責任者から説明をいただいたこともあります。

感情でものを言っただけとはいけないのですが、本来、包括支援センターというのは、進んで市民に呼び掛け、団体に呼び掛けるなど、そういうものでなくてはならないと思うのです。こちらから呼びかけてPRをさせていただいた経緯がある。何もしていない。市長が包括支援センターの利用について、そういう考えがもしあるのであればいかなものかと思う。

そのようなことで、できればもう少し積極的に市民に呼びかけて地域住民のために、活躍あるいは利用をしていただくような体制というのが必要ではないのかと思っています。

NPO法人については、先の道町連の研修会、それから全道社会福祉協議会でも大学教授からNPO法人の在り方について、いろいろ報告を受けましたけれども、今、市長が申し上げているように、第一線の中に取り入れて活用したらどうだ、という発言をした教授は誰もおりません。組織からもそういう要請は受けておりません。町内会の地域活動は、将来とも重要視されてくる。特に地域社協とともに一体化して活動していくことが重要であるという報告はされていますけれども、人材がないからといって、NPO法人を活用して地域活動をしてもらうというような話は一切出ておりません。

市長 ～ 行政はやっぱり地域町内会を育成していく義務があると思います。ですからそれを育成する方法を第一義的に考えながらやっているのですが、町内会によっては、人数が少なかったり役員の成り手がいなかったりする辛い現状を、私は平成11年の頃から関わり見ているものですから、それを解決する方法の一つの案としてそういう手法もあるということです。

だからといって、町内会の育成の手を抜くということではなく、やはり地域コミュニティの最小単位は町内会です。そこがしっかりしていないとならない。

選挙活動中、地域を回っていると困っているお年寄りから、私はどこに相談に行けば良いのかとよく聞かれました。行政に行けば良いのか、社会福祉協議会に行けば良いのか、包括支援センターというのはあまり出てきませんでしたが、名称も国の名称をそのまま使っているのもう少しわかりやすい名称にすればいいのだらうなと思っていますが、やはり介護を含めて地域包括支援センターの在り方というのは今、段々変わってきていまして、介護に特化していたのが、なんでもやるような国の指示が出てきているようです。詳しいことは解らない部分ではありますが、ただ少なくとも介護には特化して

いるので、そこは活用しなければならないだろう。

ただ、やはり私が心配するのは、町内会は育成するのですが、リーダーがいてしっかりするところと、なかなかそうはならないところをどうしたら良いのだろうか。横一線で時間がかかっても良いからそれを進めて、町内会と例えば包括支援センターと社協、行政の三者が良いのか、それとも難しければ町内会と行政の間にNPO法人という形を入れて、町内会、NPO法人、そして行政という仕組みの方が良いのか、私の中ではなかなか結論が出てなくて、皆さんと協議しながら、どちらが良いのか悩みながら、少しずつ創っていった方が良いのかなと思っています。

本来であれば、やはり町内会を強化する。拠点となる町内会をなくしてはいけない。町内会の特徴ある取り組み、コミュニティを強化する事業に対しては、イベントに振り向けていたふさと創生資金を振り向けることなども検討しながら行政は町内会と関わっていききたい。

まだ、私の中で結論が出ているわけではございません。あまりにも難しい問題ですし、町内会の悩みというのも散々聞いているものですから、小さい町内会では、とってもしゃないけどあんたが言っているような事は、うちの町内会では難しいかもしれない。かといって、どんどん先進的にやっていくリーダーがいるところとの差があまりにあるものですから、私はやっぱり悩んでしまう。

リーダーを作って発掘していくのもおそらく行政の役割なのだろうと思うのですが、その一つの解決方法としてはその間にワンクッション、NPO法人がそれを補完する役割としてあっても良いのかな。難しいことですこれは。いろいろな問題に対応できる介護に詳しい人、サービスやボランティアに詳しい人、行政の仕事に詳しい人がいて、それがコーディネートして町内会の要望に応じながら地域に入り直接問題を解決していく。それは介護に限られません。特にお年寄りにはいろいろな問題があると思います。隣近所に空き巣が入ったから心配だとか、火災報知器をつけたいけど制度がわからないなど。そういう人たちは相談する相手がいないものですからそのままになってしまふ。そういうのも含めてもっと広い範囲で支え合う仕組みがあっても良いのではないかと思う。

選挙中、お年寄り、特に女性の方のところを回って歩くことが多かったものですから、その人たちに素朴に言われたことや悩みを打ち明けられたことなどを含めて解決する、何か大きな仕組みを創っても良いのかなと思っています。

地域町内会とNPO法人と行政、後はNPO法人を創らず町内会がもう少し主体的になって、その間に社協なり包括支援センターがあり、行政という方法などパターンはいろいろあると思います。その辺を模索していければと考えています。

地域の方はやはり悩むと思うのです。行政に行ったら良いのか、社協なのか、包括支援センターなのか、混乱すると思うのです。単純な悩みや相談も含めて、どうやって皆で解決したら良いだろうかというのを、各町内会長さんと一緒に多少時間がかかっても創り上げていくことが、これから地域が生き残っていく、より良い方法だろうと思っています。この辺について急がずに進めていきたいものですから、いろいろご意見をいただければというのが私の思いであります。

ちょっと独りよがりかもしれませんがなんとかしなきゃならない。このままでいくと本当に大変なことになってしまいますし、国はそんなにあてに出来ない。地域で支え合う第一歩のところは、やはり町内会にお力を借りながら進んでいかなければならないのだろうと思っています。それらについて、それはおかしいだろうとか、私が独りよがりかもしれませんが、いろいろご意見をお聞かせ願えればと思っています。

私は白紙の状態ですからどこが悪いとかいう考えは持っていません。なんとか、今がおかしければそれを少しでも良くする方法で、支え合う仕組みを創っていければというのが私の思いでございます。

緑ヶ丘町内会

～ あまりに問題が大きいので、どういう風に話をしたら良いのか迷いながら、うちの町内の現状をお話しして、少しそちらの方で問題点を抜き出していただければありがたいなという思いも交えながら話をさせていただきます。

私どもの町内は、戸数割としては95から100の区分がありますが、現状は85世帯です。空き家がかなり増えている状態になっています。

先輩の会長さんたちから長年、町内の融和を図るためいろいろな懇談会・懇親会をやってきました。先ほどお話のあった老人クラブの敬老会もその一つでしたが、現在はしておりません。現在は1月の新年会、6月の懇親会、11月のクリスマス会を9月の観楓会に変えて、年3回ぐらい自己負担と町内会費による懇親会で少しずつ町内会の融和を図っています。ところが、85戸あるうち、参加するのは25世帯、人数にすれば40人から45人くらいの状況です。

それでは、うちの町内の人たちは町内会活動に関心がないのかというところでもない。2ヶ月に1回、廃品回収を町内会で実施します。各班で順番に協力体制を組んで実施するのですが、その時にはちゃんと参加してくれます。

それから、うちの町内もどんどん高齢化が進んできていますから、少しでも見守りをするために、社会福祉協議会で推奨しているふれあいマップづくりを考えていて、実は昨年、世帯調書とアンケートという形で皆さんに協力をいただきました。90%近い回収率で世帯の状況をきちんと教えていただきましたから、無関心な町内ではないと思いますけれども、懇親会への参加自体はそういう状況です。

いろいろなことが考えられますが、体のこともあるでしょうしそれぞれの思いもあるでしょうから、難しい部分はあるだろうなと思います。これから、どのような形で見守り活動を進めていくかということを、役員会の中で相談をしながら少しでも良い形に持っていきたいと思っています。

それから、先程市長からお話のあったNPOの関係ですが、私は今急いでやる必要はないのかなと思います。既存の社会福祉協議会や包括支援センターの役割が、皆さんにまだ周知・徹底されていないので、うまく機能していないのではないかと思います。もちろん社会福祉協議会、町連協と協働しながら第一段階は、そういう形でどういう方法が良いかを模索する時間をもう少しとって良いのではないのかと思っています。私たち自身もこれからどうすれば良いのか考えながら進めていかなければならない状況ですし、その中でまたいろいろな問題点も出てくると思っています。

北光団地町内会 ～ いつもお世話になっております。今日のような会を持たれたことに対する感想をお話したいと思います。

一つは、市長が代わられて、新しい考え方で協働のまちづくりの課を創られたという意気込みについて、私は非常に評価し喜んでます。まさに、市民とともに住民が主人公になったまちづくりをしようという意気込みを私は喜んでます。

それからもう一つは、今日の資料の道路事業箇所図を見ますと、私の町内会をお願いをしたものも整備される。6月に行われる議会に提案されることですがけれども、非常に財政が厳しい中で19本のまちの道路の整備が予定されている。このような資料をいただいたので、町内会に帰って話をする良い資料ができたと思っています。

それから一つ要望したいことがあります。今砂川に88の町内会がありますが、多いところは600世帯、少ないところは数十世帯、どこも高齢化が進み、なかなか町内会の役員の担い手がない。私もなかなかパソコンはできませんが、今はパソコン時代ですから、行政の方々はやはりそれなりに能力があります。書くこと、読むこと、整理すること。善岡市長は十数年来、晴見団地で役員をされていたと聞いていますけれども、やはり協働のまちづくりなのであれば、この際、行政が積極的に町内会に所属するというような考え方が良いかと思っています。本当に高齢化が進んでいますし、町内会の名簿を作るのも大変です。

何を言いたいかというとな北光団地で一昨年、死亡事故が起きました。その時、町内会に名簿があり、だれだれがそこに住んでいるかわかったのですぐに対応ができました。その名簿を作ったのは実は、パソコンができる市の職員を退職した人です。名簿のおかげで警察署も誰がいなかったのです。そういうことがあるので、行政の方々には積極的に町内会にご協力をお願い

したい。

それから、協働のまちづくりということでは、昨日のプレス新聞に市長も参加したサルビア会のまちなか花いっぱい運動が載っていました。今、市立病院が建って市役所通りに人どおりも多いですが、なかなか草取りも出来ない。そのような中で、自分たちで植えて自分たちで育てていく。町内会連合会で、そういうものに対するまちの助成を要望して、それが取り上げられて一株、1,000円出すというようになったのかなと思っています。花いっぱい運動には55人も参加してくれて、サルビアを植えることができて良かったと思います。

何が言いたいかという自分たちで土をおこして、自分たちで植えれば、それを育てていこうという気持ちになってくる。実は西2条の北光団地から湖岸どおりに市が花壇を植えました。しかし、沿線の人たちは草を取ろうとはしませんでした。自分たちではなく行政が植えたものだからです。それで一面の芝桜がなくなってしまった。このような経験もございました。同じように、砂川市の花のスズランも自分たちで植えたものではないから、そのうち誰も管理しなくなり、スズランの花はなくなってしまったなど、いろいろな経過があるわけで、そういった点でまちづくりはともに参加していく、自分たちでやっていくということを進めていきたいと思っています。

最後に今日来てみて、協働のまちづくりというのであれば、机の配置が理事者と別れるのではなく、お互いに丸テーブルでするのかと思っていましたので、その辺も課題として検討してください。

市長 ～ 先ほど緑ヶ丘町内会さんからいただいた、いわゆる包括支援センターの宣伝が足りないのではないかというのは、確かに知らない方が結構おられると思いますから、そんなにNPOを急がないで、周知を図りながら、その中で町内会と行政と社協なり包括支援センターとの協働を、もう少し考えた方がよいという事で捉えてよろしいですね。

それと北光団地町内会さんの協働の考え方について、私も4月27日に初登庁をして、最初に職員に訓示したことが2つございます。1つは、私は市民との、またはまちづくりをやっておられる中小企業の社長さん達と一緒にこのまちを創っていくと宣言いたしました。

もう一つは、職員は、町内会に必ず入っていると思いますけれども、入っている方については役員をやれとは強制はしませんが、少なくとも町内会の行事については、仕事がある場合はしょうがないですが、必ず皆さんと一緒に活動してほしい。職員が町内会の人と一緒に活動することによって信頼関係が生まれ、行政情報を聞かれてお話しすることもあるでしょう。そうすることによって、職員と町内会との絆が創られ、一緒になってまちを創っていきましようという形になっていくのではないかと思います。これは強制では

ございませんが、組織の中でしっかり周知を図って職員それぞれが関わってもらうようにしています。その点をご理解をしていただきたいと思います。

また、サルビア会の活動は特徴的で、4つの町内会がまたがるころだと思いますが、そういう取り組みが地域の交流を育てていく、地域コミュニティを強める一つの要素になっているのだろうと理解しています。

それから、先ほどのような意見で、行政はそんなに急がず、もう少し包括支援センターの周知を図りながら、社協の役割、行政の役割をもう少し詰めるべきだとか、NPO法人なんてすぐ結論を出すなというようなご意見が、まだございましたらお聞かせ願えればと思います。

晴見町内会

～ 役員の担い手がいなくて困っているというのは、うちの町内会もそのとおりです。今年は、会長を代われるかなと思っていたら予定者が市長になり、その次の候補は教育長になりまして、しばらくは頑張らなければならないかなと思っていました。

先ほどから出ていました市役所の職員が、地域に入って活動してほしいという件につきましては、うちの町内会はずっと以前から、市の職員は町内会活動に必ず参加していただいています。教育長は皆が公園の掃除をする前から出てきて、どぶさらいをやっています。本当にありがたいものだと思っています。

次に包括支援センターの話ですけれども、名称は忘れましたが、高齢者が安心して地域で生活していけるための話し合いを晴見町内会で行いました。話を聞きますとこれはうちの町内会だけではなく、あちこちで行われているみたいですが、包括支援センターの方や福祉課からも来ていただきました。

話をしているうちに、包括支援センターがどれほど自分たちにとって、年寄りにとって、いかに良い相談相手かということがよく解りました。私ども町内会が気がかりだと思えば包括支援センターに、あるいは個人で包括支援センターに、介護以外の事もいろいろ相談にのってくれるということが解りました。そこに参加していた年寄りたちは、こんなに良い相談相手があったのかということがよく解ったと思います。自分がもう少し体が効かなくなったら、施設に入りたいのでどんな施設があるのか、その施設の中身も今度は知りたいというような話も出ました。

先ほどの意見でも言われましたが、うちの町内会も包括支援センターが、市民の皆さんにもっともっとわかりやすいような働きかけをしていただくと、町内会と連携しながら年寄りの見守りは、できていくのではないかと思います。

それから一つ驚いたことがありました。私どもの町内にはロータリーがあって、その中を花壇にし、今までは年寄りばかりでその花の植え付けをしていました。若い人から朝の8時からではなく、もっと時間を遅くしてくれ

たら出てこられるという話がありましたが、私は実際には若い人は来ないと不安を持っていました。しかし、うちの町内にもまだまだ若い人がいるのだなと思えるほど参加をしてくれ、若い人と年寄りで花壇づくりを行いました。

これは、もしかしたら今まで町内会の役員は、年寄りばかりで固定化してきましたが、若い人も何とか脈があるなというような感じがしています。これからもまた、町内会連合会の人たちの意見を参考にしながら自分たちも活動していきたいと思っています。

もう一つは、ふれあいマップの件ですが、うちの町内では組織的にはやっていません。会長のところで、ここのところは独居老人、ここのところは障害者など、地図を作って副会長と福祉部長で共有しながら大がかりではないですが、気配りしながら行っているという状況です。

宮川団地町内会 ～ 私は、平成20年から役員をしています。うちの町内も老人と弱者が多いですから、以前は150件の町内会でしたが今は136件になりました。

うちの町内に学校の先生の住宅が2戸ありまして、前々から市役所で年に1回ぐらい草刈をするのですが、その後は町内会の人草刈をしています。個人的に機械を持っている方々が、年に4回ぐらい町内会の活動にあわせて行っています。

一昨年に教育委員会にお邪魔をし、個人ボランティアで年4回の草刈りをしているので、油代を見ていただけませんかと言いましたら、今までそういう例が無いのでと若い方に断られました。もし町内会とかが困った相談とかをしに行ったら、上の方々も聞いていただきたいなという願いです。新しい市長になり、まちづくり懇談会という素晴らしい場がありましたので、お話をしました。

石山団地町内会 ～ 市長をはじめ、皆さんに日ごろからお世話になっておりますことにこの場をお借りしてお礼申し上げます。私たちの町内会も当初400戸近かったものが、今は270戸くらいになりました。

ここのところ国の住宅、郵政や市営住宅もありますが、取り壊した後に国有地の払い下げなどがあり、アパートが建ち始めています。アパートに入居する人は、若い人が多いので町内会には入りませんという人がほとんどです。今、2棟目も工事をしていて、そういう人たちへの勧誘がなかなか難しい。大したことではないですが、広報すながわ等で町内会への加入の推進をしてもらえればありがたいと思っています。

うちの町内会も結構、独居老人は多いです。私どもも福祉部で民生委員とも協力し、毎月、例会を開きながら情報交換をしています。近年2件ほど独居老人の問題がありました。1件は間に合わなくて死亡しましたが、もう1件は何とか助かってお子さんのいる地方に行きました。そういう状況

が2件あったものですから、隣近所でなんとか助け合いながら、どうも変だなという気付きが出来つつあります。

しかし、人それぞれありますから、人の世話にはなりたくないという老人も結構多いです。障害者の方々もいます。そういう人たちに対して、当然、町内会が入って対応はしますが、相談に乗る人の知識としてかなり専門的なことが必要になる。通り一遍な話をしますと受ける方は、その場ではあまり言わないですが、全然話にならないとなってしまう。中には鍵を掛けて全然中に入れてくれないところも見受けられます。今後どうしていくかという問題もあります。私の町内も60%以上が高齢者です。当然若い人はほとんどいないというのが現状です。

それから空き家対策というのも一つあります。ほとんどは不動産業者が中に入るのですが、不動産業者が間に入るとうまくいかない事が多いです。お互い知っているので、町内会が中に入り話をして売買してもらった事が2、3ありました。このような時、市に行政が持っている知識や対応の仕方などについて相談しても、相談に乗ってくれないという話を耳にした。このような件の対応についても検討をお願いしたい。

それともう一つは、高齢化社会ですので、ふれあいセンターまでバスを回すという方法もあるでしょうが、お金のかかる問題ですから。たまたま私どものところは憩いの家があるので、老人が集まって対話ができる。それぞれの団地でいろいろなサークルや老人クラブがあって活動していますが、どうも限定される。一部の人しか集まってこない。

出来れば、高齢者が活躍、活動できる場があれば皆さんいきいきとしてくるだろうと思います。そうすれば、あまり病気にもかからず健康にも良いと考えていますが、じゃあ一体何をしたらよいかというと、なかなか高齢者の方々がいきいきと活動できる、活躍できる場がちょっと無いのかなと思います。それができるような地域になれば、少しまた良い方向に向くのにと、頭の中で考えてはいても一向に出来ないということもあって、その辺の取り組みもちょっと検討していただけると助かります。

どんどん進んでいる少子高齢化社会ですから仕方ない面もありますが、難しいかもしれませんが、産業誘致というのも昔から取り組んでいます。なかなかうまくいかない状況ですから、余計若い人がいない、活性化されないということだろうと思いますけれども、高齢者が喜んで働ける場所はなかなか難しいにしても、活動、活躍できる場所を創っていただけるといいのかなと思います。

デイサービスまで遠いため、車を運転できない方については、町内会で要望をとって週2回、数人でバスに乗って行くようにしているが、バスのため時間的な制約もあり、皆さんにとっては十分な対応ではないと思っている。これからはいろいろなことを町内会と行政と一体で考えていけたら、もう少

し良い地域ができてくるのではないかと思いますのでよろしくお願いします。

東雲町内会

～ 私どもの町内の世帯は40世帯ほどあり、現在、敬老会そして廃品回収、道路の草刈り、七夕祭りに研修会をしています。

敬老会につきましては、以前、焼山では第1から第5まで5つの町内会が集まって敬老会をずっとしてきたわけですが、行政改革により中止になってしまった。皆さん非常に残念がっていたため、各町内会が引き継いで今も行っています。このお金については、それまで廃品回収をしたことはなかったのですが、これを機会に敬老会や26ヵ所くらいある街灯の補助金も少し削られたので、その資金を捻出する方法として廃品回収を開始しました。現在は年5回ほどしていきまして、若い人も出てきて年寄りと一緒に盛りが上がってやってくれています。

砂川市のホームページで砂川市の避難施設が載っていました。それを見ますと東雲町内は、中央小のグラウンドに集まるようになっていきます。14の町内会が中央小に集まるようになっていきますが、何年か前になります私のところでも水害に遇いました。ここで非難に想定されているのは水害なのでしょうか。どういうことで避難場所を中央小学校にしているのかわかりませんが、やはり北校の跡地のような高台に避難するなど、実情に合った避難場所の方が良いのではないかと思います。

それから先日、総務課のほうから焼山神社、焼山第2町内の関係が出て、ここは昔、市民の方が焼山小学校を建てるために、土地を市に寄付したところですが、学校の役目が終わってしまったら、市はそこを希望学園に売ってしまった。筋からいえば寄付された方に一度伺って、使わないからいらぬですと聞いてから売るべきでしょう。非常に誠意がないというか、もらった物は俺の物だから売っても構わないというのでは、なかなかうまくいかないのではないかと思います。もう少し地元の話聞いて調べながら行っていただきたいと思います。

市長

～ 避難場所の問題ですが、机上の中で学校が避難場所なものですから、夏だとグラウンドで、冬だとなかなかグラウンドとはならないだろうということで学校なのですが、地域の施設で収容できる人員で、ある程度区切って作ったものなので苦情が多いです。それで先ほど言われたように、こんな問題があるということを加味しないで、図面上で分けしているものですから、例えば、他の町内会で言われたのは、目の前に総合体育館があるのに、砂中まで行かなければならないとお叱りを受けたこともありました。

説明不足というのがあると思うのですが、行政がわからない分野というのもありますので、このようなことを言うと町内会連合会の皆さんに怒られるかもしれませんが、一つの手法としては、ある程度自分たちの中で、この方

が良いのではないのでしょうかというようにやった方が、かえって地域の人たちに周知されるような気がします。

避難経路でこんな問題がある、例えば、まちの中であれば立て込んでいて、実際に災害時に避難となると使えなくなるだろうとか、いろいろな事が想定されるものですから、地域の人にいろいろな問題を提起してもらって、それと行政が併せて作った方が、かえって町内会長さんは地域に説明しやすいのではないかと思ったりもしています。

避難施設では、学校は耐震化 100%になりましたので、耐震化が残っているのは総合体育館と海洋センターと市役所だけです。市役所は直すとなると、なかなか市民の合意が得られないものですから、取り敢えず総合体育館と海洋センターについて、耐震診断を実施してその結果によっては耐震化をしたい。そうすると砂川の避難施設は全部、震度6強の地震が来ても倒壊しないで、人命は救われるという状況になりますので、その辺を砂川市は優先して取り組んでまいりました。

よく蓄えがない、毛布がないなどと新聞に叩かれましたけれども砂川市は、子どもたちや地域の人たちの命を守る方を優先して取り組んできた経過がございます。町内会連合会の皆さんと、また違う機会でも話し合いをさせていただいて、砂川で起きる、想定できる災害って一体何なのだろう。津波の心配はないので、恐らくは震度6強が来た時にどういう状況になるのか。その時に毛布がどれくらい必要になるのか。今、砂川市は子どもの国と協定を結んでいて、そこにある毛布をある程度回してもらうことになっています。それで本当に足りるかという問題もあります。毛布自体は、そんなに高い値段のものではないのですけれども保管場所等の問題もあります。ある防災センターの専門家に言わせると、市町村でそれを全部揃えられるものではない。米というのも何ヶ月かしかもたない。それらを含めて広域で取り組めないかということも考えています。それぞれの市町村で全てを保管できるのか。そのようなことも含めてまた協議させていただきたいと思えます。

先ほどの小学校の土地の関係については、私は正直言って大分前の話なのではないかと、今初めてお聞きしましてちょっとわかりません。もう終わってしまった話になるのかもしれませんが、今はコメントを控えさせていただきます。

私が今日一番知りたかったことは、先ほどの意見で言われたNPO法人の設立は急ぐな、それよりも包括支援センターの宣伝なり、行政の役割、町内会の役割、社協の役割というものをもっと明確に皆さんにお話をして、その中から時間をかけて仕組みを創っていった方が良いだろうというように受け取りましたけれども、そのような感じでよろしいでしょうか。

私が今日ここに来たのは、これからある程度行政が取り組んでいくうえで、NPO法人というのも大変難しい問題があるのは解っているものですから、それをやることによって、かえって地域コミュニティが育っているものを阻

害してしまうかもしれないという恐れもありますし、いろいろな事を心配するものですから、そのところをお聞きしたかったというのがございました。

今までのお話を聞くと既存の中で、やはり町内会、社協なり、福祉サービス事業者、そして行政との協働の方向である程度検討をしていきたいと今日は思いました。

新日の出町内会 ～ 町内会連合会というのはそういうものではない。やはり時間をかけて対応をしていかなければならない組織だと思います。特に非常に高齢化が進んでいます。今、社会問題として無縁社会と言われ、年間自殺者が3万人を超えるというのがここ数年続いています。更に独居老人もまた3万人以上の方が亡くなっている。見えないところで既に大変な事態が発生をしている。

そのような中で、地域を預かる我々としては、どうやって取り組んでいこうかというのが悩みの種ですが、砂川市においては、大きい町内会は620戸、少ない町内会は4戸です。そのような中で、例えば、福祉部を設置して活動するというのはなかなか出来ない状況もあり、非常に連携というのは難しい部分はあるわけですが、比較的我々が情報を得ている中では、皆さん大変努力をなさり、いろいろな会を通じて地域のコミュニティを図っていただいているのが現状です。

ただ、今回の東北大震災を契機に、更に地域のコミュニティの在り方、重要性というのは、皆さんひしひしと解って来ているのではないかと思います。そのような中で、より良い地域づくりに一肌脱いでもらわなければならないという受け止め方をしています。従来どおり私どもは地域づくりについては、今、行政が言っている流れは共通の部分がございます。これからも一層努力をしながら我々も対応していかなければならないと考えています。

これからのまちづくりについては、今回の機会だけではなく再度時間を設けていただいて、膝を交えて話し合いをする場も必要かなと考えていますので、なお一層の努力をお願いしたい。

従前から理事者との懇談会で申し上げておりますが、行政の方でも砂川市民がそれぞれの地域でどんな環境の中で生活しているのか、せめて道路ぐらいはチェック出来ないものかと言ってお願いをしたケースもありました。今なお、歩道の問題、いろいろな問題が出てきていますけれども、いづれにしても我々も精いっぱい努力をしていくつもりでいます。それにも増して行政も職員の方がかなり減っていて、大変忙しい状況の中で今、運営されていることを各町内会の会長さん方は解っていると思います。そのような中でのお願いになりますが、たまにはやはりどのような中で生活をしているのか見てもらいたい。

新しく来た警察署長にもお願いしたのは、地域の見守りというのは、このような高齢者社会の中では、きめ細かな対応は難しいのでパトロールの強化

をお願いしたいと伝えております。特にここ2、3年、警察での地域のパトロールというのは多くなってきています。素直に対応をしていただいているのがよく解ります。我々も地域からの声を見逃さないよう市と一体となって取り組んでいかなければならないと思っています。行政の指導もよろしくをお願いしたいと思います。今日はお忙しいところありがとうございました。

意見拝聴終了

市長挨拶 ～ 今日こんなに遅くまでお時間をいただきまして、いろいろなご意見を聴かせていただきました。ただ、私たちはこの1回で終わらせる気はありません。

先ほどの名簿の問題であったり、いろいろな方から言われている避難経路の問題などいろいろな問題があります。これらのことについても、もう少し机上ではなくて皆さんの意見を聞きながら、皆さんの理解を得ながら、避難場所についても設定をしていきたい。その代り、皆さん方を巻き込んでいる以上は、皆さん方がきちんと町内会に周知していただけたらと考えてもございます。何か所か問題もあるかと思えます。また行政が知らない問題もあると思えます。

それらについては、何回か懇談をしながらより良い方向にもっていきたいと私は考えておりますので、皆さん方に何回もお時間をお取らせするかもしれませんが、その時はまたよろしく願いいたしたい。今日はこんなに時間をいただいて、いろいろなお話をさせていただきました。本当にありがとうございました。

4. 閉会 (19:35 終了)